

公開シンポジウム

児童虐待への

ZOOM
ウェビナー開催

文理融合アプローチ

—世帯の貧困、おやこの支援に着目して—

科学技術イノベーション政策のための科学研究開発に採択され2018年から継続中のプロジェクト「子どもの貧困対策のための自治体調査オープンデータ化手法の研究（阿部彩PJ）」と「家族を支援し少子化に対応する社会システム構築のための行動科学的根拠に基づく政策提言（黒田公美PJ）」が開催する合同シンポジウムです。

第一部には、児童虐待や世帯の抱える問題に対して、対象やアプローチの異なる複数の研究結果を報告します。第二部ではそれらの報告を踏まえて、医療保健、子ども家庭福祉、労働経済の専門家とともにディスカッションします。

なお、ウェブ開催のためご参加には事前登録の上、インターネットに接続したコンピュータをご用意いただく必要がございます。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

研究報告

1部

「虐待と貧困の世代間連鎖」
阿部彩/東京都立大学人文社会学部

「幼少期の逆境体験の媒介要因としての母親のメンタルヘルスと子の健康と発達の関連」
加藤承彦/国立成育医療研究センター

「重度の子ども虐待事例における生物心理社会的な背景要因分析」
黒田公美/理化学研究所脳神経科学研究センター

「体罰をしない子育てをどう支援するか」
白石優子/理化学研究所脳神経科学研究センター

2部

コメント
阿部正浩/中央大学経済学部
宮島清/日本社会事業大学

パネルディスカッション「子ども・家族政策のために、それぞれの立場から考えること」
山縣然太郎（山梨大学大学院総合研究部医学域）、阿部正浩、宮島清、加藤承彦、黒田公美、阿部彩 他



申込期間

7月1日-8月31日

事前登録(必須)

https://zoom.us/webinar/register/WN_teTy4CILTEiXv6ulCf532w

2020年 9月 3日 (木)
13:00 - 17:00



参加費無料
事前登録を
お願いします